

令和6年度全国学力・学習状況調査結果と今後の指導について（概要版）

小豆島町教育委員会

1 調査の概要

（1） 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

（2） 調査の対象

- ① 小学校調査 小学校第6学年
- ② 中学校調査 中学校第3学年

（3） 調査事項

- ① 教科に関する調査 ・小学校（国語、算数） ・中学校（国語、数学）
- ② 質問調査 ・児童生徒に対する調査 ・学校に対する調査

（4） 調査実施日

令和6年4月18日木曜日

（5） 調査を実施した児童生徒数

- ① 小学校調査 4校 82人
- ② 中学校調査 1校 83人

2 調査結果の概況

- 全国（公立）の平均正答率との差が1ポイント以上の場合・・・「**上回った**」「下回った」
- 全国（公立）の平均正答率との差が1ポイント未満の場合・・・「**ほぼ同じ**」

（1） 教科に関する調査の全体的な状況

- ① 小学校
 - 国語・・・全国（公立）の平均正答率とほぼ同じ
 - 算数・・・全国（公立）の平均正答率を**上回った**
- ② 中学校
 - 国語・・・全国（公立）の平均正答率とほぼ同じ
 - 数学・・・全国（公立）の平均正答率とほぼ同じ

小学校編

(2) 課題のあった設問

	出題の趣旨	今後の指導で大切にしたいこと
国語	●目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる。	○各教科の授業において、理由とともに自分の考えを表現する機会を設定することで、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるようにする。
	●登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができるかどうかをみる。	○他者との交流によって様々な考えに触れることで、人物像や物語の全体像をより豊かに想像することができるようにする。
算数	●数量の関係を、□を用いた式に表すことができるかどうかをみる。	○数量の關係に着目したり、計算結果を振り返ったりすることで、計算の性質に気づき、計算の仕方を捉え直す機会になるようにする。
	●道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる。	○自分の考えを説明したり、意見を交流したりする機会を充実させ、言葉や数に着目できるようにすることで、「速さ」を「道のり÷時間」で表すことの意味を理解することができるようにする。

子どもたちに必要な資質・能力を育むためには、学校で学んだことを日常生活で活用したり、家庭や地域での経験を学校生活に生かしたりすることがとても大切です。子どもたちが学校で学んでいることに関して、ぜひ子どもたちと楽しく話したり、一緒に考えたりしてみてください。保護者の働きかけのある子どもは学力が高いという傾向があります。



(3) 無回答率（問題に回答しない割合）

状況	今後の指導で大切にしたいこと
全国（公立）の無回答率を下回った（無回答が少なかった）問題数 ○国語・・・14 問中 13 問 ○算数・・・16 問中 16 問	以前は、記述式の問題に対して無回答率が高い傾向があったが、近年は無回答率が減少している。理由として、時間配分がうまくできている児童や、最後まで諦めずに粘り強く問題に挑戦している児童が増加していることが考えられる。キーワードとなる言葉に印をつけながら文章を読んだり、自分の意見を伝える機会を増やしたりすることで、自信をもって回答することができるようにする。

(4) 質問調査 ※ 肯定的回答の割合を全国（公立）と比較したもの

	状況	今後の指導で大切にしたいこと
自尊意識について	○自分には、よいところがあると思いますか（ <u>下回った</u> ） ○将来の夢や目標を持っていますか（ <u>上回った</u> ）	児童が自己のよさや成長を味わうことができる場を工夫することで、自尊感情を高める。
規範意識等について	○人が困っているときは、進んで助けていますか（ <u>下回った</u> ） ○いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか（ <u>上回った</u> ）	道徳や学活、総合的な学習の時間等において、人とのかかわりを大切にし、積極的に体験的な学習を取り入れるようにする。
学習に関する関心・意欲について	○国語の勉強は好きですか（ <u>下回った</u> ） ○算数の勉強は好きですか（ <u>下回った</u> ） ○理科の勉強は好きですか（ <u>下回った</u> ） ○英語の勉強は好きですか（ <u>下回った</u> ）	効果的にICT機器を活用したり、自分で考え、取り組むことができる児童主体の授業づくりを進めたりするようにする。
家庭における学習習慣等について	○1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか（「2時間以上」の回答が <u>下回った</u> ）	自分の将来について考えさせることで、目標に向かって主体的に学習する習慣が身に付くようにする。下校後や休日の過ごし方について、家庭で話し合う機会をもつことも大切である。

中学校編

(2) 課題のあった設問

	出題の趣旨	今後の指導で大切にしたいこと
国語	●話合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができるかどうかをみる。	○日常から相手意識や目的意識をもたせて文章を書く活動を取り入れ、相互評価することで、自分の文章を推敲する時間を設定する。
	●文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができるかどうかをみる。	○教科書等を活用し、図やグラフの役割を意識して本文を読む機会を増やすことで、情報と情報との関係を理解して文章の展開を捉える力の向上を図る。
数学	●目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる。	○数に関する事象を考察する際、成り立ちそうな事柄を予想し、予想を確かめることで、事柄が成り立つ理由について筋道を立てて考えを説明することができるようにする。
	●複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる。	○複数の集団のデータ分布に着目し、その傾向を比較して読み取り、伝え合う活動を通して、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるようにする。

学力向上のためには、学習を習慣化していくことが大切です。小豆島町の子どもはスマートフォンやゲーム等の利用時間が長く、家庭学習の時間が短い傾向にあるので、下校後や休日の時間の使い方を家庭でも話し合っていたり、目標に向かって計画的に学習を継続していくと伸びにつながります。小さな伸びを認めていくことで、継続の意欲も高まります。



(3) 無回答率（問題に回答しない割合）

状況	今後の指導で大切にしたいこと
全国（公立）の無回答率を下回った（無回答が少なかった）問題数 ○国語・・・15 問中 15 問 ○数学・・・16 問中 16 問	すべての設問において、全国（公立）の無回答率を下回った。理由として、時間配分がうまくできている児童や、最後まで諦めずに粘り強く問題に挑戦している生徒が増加していることが考えられる。「まとめ」、「振り返り」の時間を大切にし、学んだことが生かされるような課題を繰り返し行っていくことで、自信をもって回答することができるようにする。

(4) 質問調査 ※ 肯定的回答の割合を全国（公立）と比較したもの

	状況	今後の指導で大切にしたいこと
自尊意識について	○自分には、よいところがあると思いますか（ <u>下回った</u> ） ○将来の夢や目標を持っていますか（ <u>下回った</u> ）	生徒の自己有用感を高める取り組みを続けるとともに、互いのよさを認め合うなかまづくりを行っていくようにする。
規範意識等について	○人が困っているときは、進んで助けていますか（ <u>下回った</u> ） ○いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか（ <u>上回った</u> ）	道徳や学活、総合的な学習の時間等において、人とかかわりを大切にし、積極的に体験的な学習を取り入れるようにする。
学習に関する関心・意欲について	○国語の勉強は好きですか（ <u>下回った</u> ） ○数学の勉強は好きですか（ <u>下回った</u> ） ○理科の勉強は好きですか（ <u>下回った</u> ）	効果的にICT機器を活用したり、自分で考え、取り組むことができる生徒主体の授業づくりを進めたりするようにする。また、「現在の学びが将来どのように生きるのか」を伝えていくようにする。
家庭における学習習慣等について	○1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか（「2時間以上」の回答が <u>下回った</u> ）	自分の将来について考えさせることで、目標に向かって主体的に学習する習慣が身に付くようにする。下校後や休日の過ごし方について、家庭で話し合う機会をもつことも大切である。

